

学校教育目標	≪ふれあう ためす つくりだす やべっ子 きらきら かがやこう≫ → つながる、チャレンジする、新しい自分を創り出す。 ◎めざす子どもの姿【友達が好き、先生が好き。そして学校が好き、自分が好き】 友達や先生とつながりあいながら、様々なことにチャレンジすることを通して、新しいより良い自分を創り出す。 ○主体的な学びを大切にし、より良い自分を創ろうとする子を育てます。(知) ○自他の価値を尊重し、人を思いやる優しさのある子を育てます。(徳) ○命と体を大切にし、進んで体力づくりや生活改善に取り組んでいこうとする子を育てます。(体) ○地域とのつながりを大切にし、より良い地域社会のために積極的にかかわる子を育てます。(公)公共心と社会参画 ○視野を広げながら、互いに認め合える学校や社会を創り出そうとする子を育てます。(関)未来に開く志			
	創立 56 周年 児童生徒数: 705 人	学校長 内山 聖司 主な関係校: 戸塚中学校	副校長 藤田 敏明	2 学期制 一般学級: 22 個別支援学級: 7

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	戸塚中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
○主体性、自立心 「伝え合い、高め合う」前提となる、自分で考え決定し行動する力を培う。 ○コミュニケーション力、協調性 ○責任を果たそうとする力 「相手を思いやり、共に生きていく」前提となる、協調しようとする気持ちやコミュニケーション力、責任を果たそうとする気持ちを培う。	戸塚中学校 矢部小学校 戸塚小学校 東汲沢小学校	自ら学び 人との関わりを通して 自分らしく 心豊かに 生きていく子 ・小中授業研究会や児童生徒交流、地域交流、あいさつ運動等を通して、戸塚中ブロックで育てたい資質・能力を明確にして教育活動を展開する。 (戸塚中学校ブロックで育てたい資質・能力) ○伝え合い、高め合う力 ○相手を思いやり、共に生きていく力 ○自己有用感、自己肯定感

中期取組目標	【人とのつながりを大切にしながら、安全・人権・学習を軸にした、安心して学べる学校にします】 ○子どもたちに身につけさせたい資質・能力を明確にした、意図的・計画的な教育活動を推進します。 ○子どもたちの現状を把握し、3つのプロジェクトで取組を進め、子どもたちの成長を育みます。 ○授業研究を通して、子どもたちの成長を育むとともに、教員の授業力向上を図ります。 令和8年度研究主題 「ふれあう ためす つくりだす やべっ子」の実現に向けて ～主体的に学び、学びを実感できる授業づくり～
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知 担当 学力向上プロジェクト	①学ぶことに興味・関心を持ち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次の学習につなげる力を育てる。②主体的に学び、学びを実感できる授業づくりを目指して、授業研究や研修を推進し教員の授業力向上を図る。③学力・学習状況調査の結果を分析し、授業改善で学力向上に取り組むとともに、児童一人ひとりに応じた学習指導を行う。
徳 豊かな心 担当 心の育成プロジェクト	①関わりのある人へあいさつをしようとする実践意欲を高める。 ②自己有用感・自己肯定感を高めるために実行委員活動の充実を図る。 ③道徳教育活動を通じた道徳教育の充実を図る。
体 健やかな体 担当 体力向上プロジェクト	①体育科学習の充実に努め、運動量のある授業づくりを進める。②外遊びや体力づくりを推奨し、ユータイムを活用した運動や、体育委員会の取り組みを定期的実施することで、体力の向上を目指す。 ③保健委員会の活動や給食委員会の食育の推進により、健康づくりや健康管理の指導を充実させる。
公開 地域学校協働活動 担当 教務部各担当	①地域学校協働活動本部及び学校運営協議会と協働し、地域と連携して豊かな教育活動の推進を図る。 ②谷矢部池公園の地域行事や清掃、地域の施設活用や地域防災訓練への児童の参加を活性化し、地域の一員として役立とうとする心情を育てる。
いじめへの対応 担当 学校いじめ防止対策委員会	①児童の気になる言動や行動について、学年内・学校内で情報共有を図り、専任・管理職に相談し共通認識に立って迅速に組織的な支援体制をとる。 ②児童理解に努め、児童に寄り添った指導と、保護者とのコミュニケーションを密にする。
人材育成・組織運営(働き方) 担当 教務部・メンターチーム	①ミドルリーダーが主体的に学校経営に目を向け、学校運営に取り組む意識を高めるために、主幹会を適切な時期に設定し活用する。②経験5年以下の教員を中心にメンターチームを組織し、情報交換やミドルリーダーを講師とする研修を月一回開く。③教育の質の向上と教職員の負担軽減を目指し働き方改革を推進する。
環境教育 担当 教務部各担当	①きずな・わかぎなどのボランティアと連携し、谷矢部池公園での学習や体験を充実させ、自然を大切にしようとする心情を育てる。②自然に親しむことを通して、身近な環境から広い視野に立った環境問題まで、広く環境を考えることができる意識を育てる。
児童生徒指導 担当 児童指導部	①全職員で児童の把握を行い、児童支援専任が中心となって、効率的な情報共有をもとにした適切な支援につなげられるようにする。②チーム学年経営を行い、学年内で計画的に交換授業を行い、組織で児童の支援を行えるようにする。③カウンセラーや外部組織を活用し、より専門的な支援につなげる体制を作る。
a14 担当	b9
a15 担当	b10